

北陸圏広域地方計画
第2回「産業と活力専門分科会」検討資料

平成19年3月12日

1. 第1回分科会における主な発言の要約

● 将来像や課題検討における視点に関する発言

- 東アジアの流れは早い。現在の視点ではなく、計画を実行する5年先、10年先をシミュレーションして考えていく必要がある。
- 人口減少・少子高齢時代を迎え、縮小傾向の中でこれからの産業や地域づくりを考えていく。そのためには、従来の成長の枠組みや捉え方を考え直す必要がある。
- 異質なものをどう組み合わせるかが重要になる。つまり、コラボレーションや連携という概念が重要になってくる。
- 北陸の良い点からばかりではなく、悪い点を直すという発想があってもよい。
- 視点を変えれば北陸は活性化する。ビッグ・カンパニーかグッド・カンパニーのどちらをめざすかを含めて見直していくべき。
- 活力を高めるために「保護する」という視点があっても良い。

● 広域連携を推進するための主体等に関する発言

- 北陸3県が県境を越えて連携していく必要がある。それを主導するコーディネータが必要だ。(機能として、人材として)
- この計画を進める主体は誰か、何をするのか考えていく必要がある。
- 男性の社長会はあるが女性の女将会はない。3県連携のためには、そうした組織をつくってもよいかもしれない。
- 住民グループやNPOなどを重視して、広域連携を推進する仕組みを作り上げていけば活力が生まれるのではないかな。
- 行政が核になるものを作ってくれば、後は住民が活性化に取り組む。

● 連携を進めるための視点に関する発言

- 北陸の人たちが、着物から家屋までの自分たちの文化をもっと好きになり、プライドを持つ。そして連携することが重要。
- 北陸3県が連携することで観光資源は厚みを増す。いくつかのメニュー(プログラム)を提示することで、国際観光でも競争力が生まれる。
- 北陸の技術や人材は世界的にも優れている。このあたりから交流・連携を深めていくことで、他ブロックに対して優位性を保っていく。

● 東アジアとの連携に関する発言

- 東アジアとの連携は九州などが先行し、北陸は出遅れている。また今後の競争も激しい。
- 東アジアへとターゲットエリアが広がっているが、北陸の強みは北東アジアにある。誰もが東アジアに向かう中で、北陸の戦略を考えるべき。

● 今後展開すべき資源や方策に関する発言

- 日本人の感性は世界一であり、それを産業にしているのも日本だけだ。東アジアに限らず世界市場で競争力を持っている。
- 水とコシヒカリ、海の幸という北陸の「食」をネットワークすると、北海道に劣らない大きな産業になるのではないかな。(1次産業の2次、3次産業化)
- 歴史的な伝統産業だけでなく、デザインや漫画など北陸の現代的な文化やコンテンツの集積を掘り起こせば、文化産業に展望が見えてくる。
- 北陸は他地域に劣らず資源を持っている。資源がありすぎて使い切れていないのではないかな。
- 優れた製品に対して「メイド イン ジャパン」ならぬ「メイド イン 北陸」のお墨付きを与えて活性化する。
- 「感性のシステム化」という方向性がある。感性を持った人材を育て、他の追随を許さない質の高い製品を作っていく。それは北陸にしかできない産業になる。
- 北陸ブランドや地域ブランドをもっと大切に育てていく、作り上げていく。

● これからの産業や活力を担う「人づくり」に関する発言

- 人材を育てても外に出て帰って来ない。良い人材が地域の活性化には必要であり、働く場や帰って来なくなるしくみづくりが必要。そのための教育投資、企業の協力を。
- いろんな形で地域の誇りを取り戻し、若い人たちに北陸に定着してほしいと思う。

● 産業や活力のために今後必要な事項に関する発言

- 日本海側に、高速道路・空港・港湾のネットワークがきちんとできてはじめて、国際競争力や太平洋側の代替機能が生まれる。
- 旅館などで北陸の文化をもっと日常的に取り入れていく。それは北陸文化の発信ともなる。
- 産業の活力には打つ手は少ない。「人が動けばモノが動く」を考えて、観光(交流)から考える。

2. 北陸圏の特性等からみた地域づくりの方向性(案)

<北陸圏の特性等>

(国土における位置づけ)

- 太平洋側と相互に補完関係にある日本海側の国土軸(連携軸)の一翼
- 日本海国土軸の中央に位置し、東西日本を結ぶ役割を担う

(東アジアとの関係や独自性)

- 北東アジアとの交流の歴史と実績
- 日本海をはさんで東アジア・北東アジアと近接
- 東アジアを中心とした国際定期航路・航空路を有している
- 環境問題等東アジアの動向に伴う影響を受けやすい圏域

(北陸圏の特性〔主な強み〕)

- 日本の3大都市圏を後背地に持つ(300km圏)
- 「雪」や「水」など地域の特徴ある資源
- 独自の「食」や「自然」「文化的景観」等の魅力
- 個性ある製造業(地場産業)の集積
- 「観光」や「農業」などの注目産業における強み
- 全国有数の居住環境・居住空間
- 地方都市と田園地帯の連なり
- 独自の文化・技術・感性と多彩な人材

(時代変化における課題)

- 人口減少・高齢化の先進地域
- ブロックを支えるべき人材の流出
- 3県間の連携・交流の一層の増進

<北陸圏の地域づくりの方向性 — 将来像イメージ>

1. 資源や技術、地理的優位性等の「北陸パワー」を活用して、東アジア・北東アジアのパートナー圏域を形成する

国際的拠点圏域

2. 個性的で競争力のある「北陸産業」の育成・活性化により、自立したブロック経済圏域を形成する

産業活性化

3. 他では味わえない「北陸体験」を求めて、全国から世界からたくさんの人たちが交流する、にぎわい圏域を形成する

交流人口の拡大

4. 人口減少・高齢化社会に対応する新たな「北陸システム」を創出し、持続可能な地域づくりのモデル圏域を形成する

地域を支えるシステム

3. 方向性実現に向けての北陸圏の課題

1 資源や技術、地理的優位性等の「北陸パワー」を活用して、東アジア・北東アジアのパートナー圏域を形成する

<北陸圏の課題>

- ① 東アジア・北東アジアにおける社会的課題の解決に貢献する視点からの交流の推進
- ② 地理的優位性を活かし、競争力を高めるための国際的物流機能の向上

<取り組みの例>

- 「水」「環境」「防災」をテーマとした交流
→ 北陸の国際的リスクも軽減化
- 各国の港湾や空港等との連携

- 港湾・空港・道路・鉄道のネットワーク整備
- 機能分担を図り、北陸全体の国際物流拠点化の推進
- 太平洋側との役割分担、後背地からの集荷等による日本海側の物流拠点の形成

2 個性的で競争力のある「北陸産業」の育成・活性化により、自立したブロック経済圏域を形成する

<北陸圏の課題>

- ① 北陸圏の既存産業の競争力を高めるための地域支援システムの構築
- ② 北陸圏の資源や特性を活かした、新しい産業分野や地域ブランド形成への取り組み
- ③ 食の安定供給を支えるための農林水産業の振興

<取り組みの例>

- 産業集積モデルの構築(東アジア諸国との機能分担を含む)
- 北陸圏広域産業交流センター(異業種交流)
- 「技術」「人材」に注目した広域的な大学・企業の交流・連携の推進

- 「雪」「水」「食」の産業化
- 北陸ブランド(メイド・イン・北陸)
→製造から販売まで一貫して地元企業が担当など
- IT産業等の立地促進

- 経営基盤である農地や用排水路等の適正な整備・更新、集落機能の維持
- 米以外の特産物のブランド化

3

他では味わえない「北陸体験」を求めて、全国から世界からたくさんの人たちが交流する、にぎわい圏域を形成する

<北陸圏の課題>

- ① 時代や訪れる人のニーズを捉えた、新しい「北陸観光」の創出・展開
- ② 観光と連携した既存産業や地域の活性化の推進
- ③ 他地域から北陸圏への移住や「二地域居住」の促進

<取り組みの例>

- ホスピタリティあふれる地域づくりの推進
- 歴史、文化的景観や自然、雪、食の活用
- 広域連携による新しい観光・交流プログラム
- 北陸圏内の交通体系の整備
- 外国人の受け入れ体制の整備・充実化
→ 入国、標識、案内 等

- 産業観光や伝統産業の観光化
- 中心市街地の再生・活性化(にぎわい空間)
- ITを活用したユビキタス空間整備
- 伝統的景観や田園景観の保全・継承
- 歴史・伝統文化など地域の魅力を活かしたまちづくり

- 都市部と中山間地(農山村)を結ぶ地域整備
- 北陸圏全体での移住促進への取り組み

4

人口減少・高齢化社会に対応する新たな「北陸システム」を創出し、持続可能な地域づくりのモデル圏域を形成する

＜北陸圏の課題＞

① 人口減少・高齢化社会に対応した新しい「人づくり」「人材育成」の推進



② 広域的連携を推進するための新しい広域的連携システムの構築



＜取り組みの例＞

- 3県の大学等の連携による教育システム
- 中高年の再チャレンジや農業等の教育を行う広域的な人材育成システム
- アジアの優秀な留学生の招聘、人材育成及び企業における活用
→東アジア・北東アジアの人材育成を支援
- 小中学校段階から地域産業への就業意欲を喚起するキャリア教育

- NPOを中心とした産官学民の広域的ネットワーク組織
→広域的地域づくりを推進